

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.43

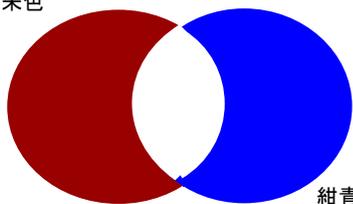
2008-10-4

일한 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2. ニュース | 事務局 |
| 3. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 4. ホームステイ感想文 | 参加者の声 |
| 5. 会員の広場 | 会員の皆さん |
| 6. ソウル通信 | 坂野慎治 |

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

◎ (1) 奇蹟が起きた！“交流の夏”

～ 日韓交流行事、中止の嵐の中で ～

7月31日（木）の正午前、中部国際空港の到着出口から光州学生訪問団のメンバーが手を振りながら姿を現しました。一行は、さっそく出迎えの面々と笑顔で固い握手を交わします。私も学生たちの手を握りながら思わず呟いてしまいました。「ありがとう！ありがとう！よく来てくれたね…」と。

その2時間前、一行を迎えるため空港に向かうマイクロバスの中で誰かが言いました。

「光州の学生たち、本当に今、名古屋行き飛行機に乗っているんでしょうね？」今、思えば笑い話のような一幕ですが、出迎えの会員たちの心中に、大きな不安があったのも事実です。当時、竹島（韓国では独島）をめぐる問題で日韓の間が大きくきしんでいました。7月に入った時点で、日本の文部科学省が今後、“竹島を日本領である”と教科書に明記する方針であることが報道されたとたん、韓国内で怒りの世論が沸騰したのです。その結果、ありとあらゆる韓日交流行事が中止に追い込まれていきました。日本の新聞も「韓国の国民の反発は激しく、すでに117件もの日韓交流行事が中止になった…」と伝えるほどでした。訪問団の出迎えに向かった会員たちが、一行の姿を見るまで不安を

捨てきれなかったことも理解していただければいいでしょう。

そして、日韓の間に黒雲が広がり、乱気流がすさぶ中でも、光州学生訪問団は来日を果たしてくれました。彼らを派遣したYMCAの勇氣ある決断に頭が下がる思いがしたものです。

7月31日、訪問団一行と私たちは、出合いもそこそこに奈良一泊旅行に向かいました。奈良では法隆寺と東大寺を訪ねるのが恒例です。今回も、法隆寺では大野玄妙管長が、東大寺では筒井寛昭執事長が、それぞれ訪問団を迎え、寺と韓半島との係わりについて、いつもに増して熱弁を振っていただきました。



訪問団の一行は奈良旅行のあと、名古屋周辺で3泊4日のホームステイを行いました。帰国前日の8月3日(日)には恒例の“交流の夕べ”に出席しましたが、彼らの記憶にも残ったに違いない、お二人の挨拶の内容を紹介しておきましょう。

一人目は、来賓として臨席されていた名古屋韓国総領事館の朴喆(パク チョル)副領事です。着任して4ヶ月経ったばかりで、名古屋以外は土地勘がないという若々しい朴副領事は、自分をまだ「井の中の蛙ですが…」とユーモラスに自己紹介した後、次のように挨拶されました。

「現在の韓日関係について、皆さんが難しい時期だと言います。そのため、民間交流がキャンセルになったり、保留になるなどの事態が起きています。非常に残念でなりません。その原因はと言えば、互いに対する理解の不足から来ているのではないかと聞いたことがあります。私も、その意見に同感です。個々人の関係と同じように、国家間の関係においても、相手に対する理解はとても重要です。そのため、この度の(光州YMCAと日韓市民ネットワークとの)交流行事がより輝かしく見えます。これまでの10年間、ご尽力された日韓市民ネットワーク・なごやの関係者の皆様に今一度感謝と敬意の意をあらわす次第です…。」

この朴喆副領事の言葉は、私たちと光州YMCAのメンバーにとって、この上ない嬉しいプレゼントとなりました。そして次に挨拶に立った光州YMCAの副理事長で、今回の訪問団長である孫仁東さんは、訪問団派遣に至るまでには葛藤もあったことを明かされました。独島に関して世論の日本への反発が沸騰する中で、YMCAの理事会でも当然「今回は派遣を中止したらどうか」という意見も出たといえます。しかしこれまで訪問団を引率して来日し、日韓市民ネットワークの会員と交流した経験を持つ元の理事長や副理事長さんたちが中心になって「今回も派遣すべきだ!」と主張されたのだそうです。主張の内容は「日韓市民ネットワーク・なごやはすでに10年にわたって純粋に韓国の学生や市民との民間交流を続けてきた団体で、政治とは一切係わりを持っていない。今、純粋な市民交流を中断しなければならない必然性は無いと思う」というものだったようです。

いずれにしても私たちが、愚直に10年余り続けてきた日韓市民の交流の試みが交流行事中止の嵐の中でも、結果として小さな花を咲かせたことを共に喜びたいと思います。私たちの会の名誉顧問、鄭煥麒琥珀会長の座右銘「継続は力なり」を改めて実感させられた夏でした。

訪問団への寄付に心から感謝します

このたびの交流の夏に寄付をお願いしたところ、顧問の皆さんをはじめ、数多くの会員の方々から心あたたまる寄付を寄せていただきました。計56名からの寄金の総額は33万円にも上りました。皆さんの善意にお礼申し上げると共に、別ページにお名前などを掲載させていただきます。

◎ (2) 12月23日(祝)は会員交流日!

～ 11月に再度案内を送います ～

例年、12月のクリスマス前に留学生を招いて、日韓“学生・市民”交流の夕べを開きますが、今年も12月23日(祝日)の夕方、17時半から名古屋の韓国学校で開催する計画です。ただし今回は例年と違って、交流の主体を“日韓の協力者や会員”とし、留学生は少し数を減らす方針です。留学生が少数になるので恒例の募金も行いません。

今回、会員や協力者の交流を主軸に行うには理由があります。それは、ここ3～4年、会員の皆さんが交流団や留学生に関する行事に熱心に募金していただいている反面、ご自身が交流の夕べに出席される回数が少なくなっているように思えるからです。日韓市民ネットワーク・なごやが、これからも地味ながら日韓の学生や

市民の交流を継続的に行うには、やはり会員の皆さんに参加感、一体感を持っていただくことが必須条件と言えるのではないのでしょうか? 久しぶりに会員や協力者が顔を揃え、会の方向性を確認したり、それぞれの情報を交換したいと思います。そうした情報交換の一つとして、この場で09年4月から日韓交流史の2000年を学べるダイナミックな講座を、文化センターで開講する方針も明らかにします。講師を引き受けてもらう都立日比谷高校の教員 武井一さんも呼んで、会結成12年目に向けての意気込みを皆で確認したいと考えます。

この集いに、ぜひ参加していただくよう12月23日(祝)の日程を、夕方からは確保しておいて下さい。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1.報告

1) 光州学生訪問団の受け入れ

訪問団スケジュール

7月31日(木) 11:00 セントレア着～バスで奈良法隆寺へ～奈良ユース泊まり
 8月 1日(金) 9:00 発～興福寺～東大寺～平城宮跡～平城宮博資料館～名古屋へ
 18:30 名古屋国際センターでホストと対面 ホスト宅泊
 2日(土) 一日ホストと自由行動 ホスト宅泊
 3日(日) 16時まで自由行動～17:00 交流の夕べ(韓国学校) ホスト宅泊
 4日(月) 10:00 セントレア集合～12:00 発アジアナ機で帰国

光州学生訪問団 交流の夕べ 会計報告

収入	会費	130,000	支出	料理・飲物・器類	141,976	差引不足金	△17,441
				会場の飾付・雑費	5,465		
	計	130,000		計	147,441		

訪問団に対する接遇・支援費用(寄付金より充当)

収入	基付近合計	329,500	支出	奈良旅行経費	243,112	差引残高	68,947
	不足金	△ 17,441					
	計	130,000		計	243,112		

＜寄付金＞敬称略

浅井 郷士	3,000	加藤 佳和	5,000	成 功	10,000	平松 久仁子	3,000
池田 進	5,000	金山 栄子	10,000	田口 良浩	5,000	牧野 司	5,000
市川 延江	3,500	神谷 良子	2,000	竹中 志保美	2,000	増田 一夫	3,000
伊藤 みつ子	3,000	久保 壽市	3,000	棚瀬 明子	6,500	宮本 昌子	3,000
伊藤 義郎	5,000	小出 宣昭	3,000	崔 勝人	3,000	安田 守	5,000
岩田 隆司	10,000	小坂井多恵子	3,000	土田 隆夫	3,000	山田 あき子	2,000
鶴飼 満	10,000	後藤 和晃	5,000	土本 美恵子	3,000	山本 玲子	5,000
梅田 徹	3,000	酒井 正宏	1,500	出口 和代	3,000	匿名 希望	5,000
大久保 孝造	3,000	堺澤 一生	3,000	土岐 良文	5,000	匿名 希望	2,000
大久保 舜司	3,500	佐々木 英之	1,500	中川 修介	1,500	顧問・招待者など	
大嶋 明	1,500	佐藤 昭子	6,500	長澤 進	6,500		
大西 さおり	3,500	鈴木 一字	3,000	長田 竹子	3,500	鄭 煥麒	50,000
大橋 幹夫	2,000	鈴木 幸之助	10,000	成瀬 一男	10,000	横内 恭	50,000
岡崎 洋子	4,000	須田 奈保美	1,500	野村 哲	10,000		
加藤 勝	3,000	瀬尾 文子	2,000	原 和夫	1,500		
人員数	顧問・会員			計 56 名		合計金額	329,500

2.お知らせ

1) 第15回韓日歴史・文化フォーラム『考古学から見た韓日関係』

紀元前の4000年頃より海峡をはさんだ慶尚南道と西北九州の漁民の交流は大変活発であり、その延長上に中国南部から韓国へ伝わった米作が、九州に伝わり、日本全土に広まることになった。このような国家間ではない民家レベルの交流は近世においても韓国の特徴的な瓦が伝わり、誰もそうした背景があることも知らず、毎日見ていることをお話したい。

講師紹介

渡辺 誠 (わたなべ まこと) 氏 名古屋大学 名誉教授
日本考古学協会 副会長

<略歴>

1938年、福島県に生まれる。
慶応義塾大学文学部博士課程（東洋史）修了。
名古屋大学助教授・同教授、「山梨県立考古博物館」館長歴任。縄文時代および日韓関係の考古学的研究をすすめている。
現在、名古屋大学名誉教授のほかに日本考古学協会副会長、財団法人古代学協会研究員などを務める。

<主要著書>

『日韓交流の民族考古学』
『よみがえる縄文人』 等

日時 2008年10月22日（水）午後6時30分開演（午後5時30分受付開始）

会場 民団愛知県本部（愛知韓国人会館） 5階ホール

名古屋市中村区亀島1-6-2 TEL 052-452-6431

地下鉄東山線「亀島駅」下車、③番出口から西へ徒歩1分

会費 500円

主 催 韓日歴史・文化フォーラム実行委員会

2) 第16回韓日歴史・文化フォーラム

第16回韓日歴史・文化フォーラムは特別企画として、韓国のドキュメンタリーの巨人といわれる鄭秀雄（チョン・スウン）氏を招いて、1910年の日韓併合の前に起きた日韓交流史上の汚点“閔姫暗殺”をドキュメントした作品を上映し、作品にこめた鄭氏の意図を聞きます。

日時 11月26日（水）18:00開演

場所 愛知韓国人会館5Fホール

会費 500円



◎ 光州学生訪問団関係の感想文

光州の学生の感想文

◎ 強く印象に残った奈良旅行

イ・ヒョンジョン

1泊2日の奈良旅行では、法隆寺と東大寺が強く印象に残った。

古代朝鮮・百済と新羅の調和。我が祖先が日本に渡って建立した、世界最古の木造建築物が法隆寺だ。屋根の瓦には高句麗の気品が、柱を支える石に新羅に息遣いを感じる。法隆寺の大野先生は、私たちの祖先が日本に建築様式だけでなく、天文など多くのことを伝えたを教えてくれた。

東大寺の建物は過去に焼失したことがあり、焼失前の2/3の規模で復元された。その話を聞き、先ごろ焼失してしまった崇礼門を思い出した。いくら卓越した技術力で復元したとしても、昔の息遣いが戻ってこないのは心苦しい。どこの国でもそうだけど、国宝ともなれば大事な文化財なのだから大切に保存しなければならない。

名古屋国際センターに到着後ホームステイホストと合流し解散するのだが、私はここまで同行して下さった山田さんと共に家に向かう。町並みが何だか可愛らしく、家も静かで落ち着いている。仕事帰りの両親にご挨拶し、回転寿司のお店に行った。言葉に詰まりぎこちない私に面白いジョークで接してくれたお父さん、美味しいものをたくさん薦めてくれたお母さんはとても生き生きしていた。

今なお韓国と日本は大きな問題を抱え、摩擦が生じている。この状態はいつ終わるのか、分

からない。だけど私は、日本とはかけがえの無い友達になれると思っている。遠い昔に、辛いこともあったのだから……。

交流の夕べ。ここで私たちから、歌と踊りのプレゼント。最初は照れくさかったけれど、いつの間にか楽しくなり、皆の気持ちが一つになっていくから不思議だ。

もう最後の夜。名残惜しいけれど、一番大切な時間かもしれない。家に帰り、ご両親との会話に花が咲く。名古屋と奈良で見た日本の食べ物、文化、人々……。その時その時の感想を、山田さんの通訳でご両親に話してみた。

日本語が出来ず申し訳ない気持ちで一杯だった。夜、寝る前に韓国語で手紙を書いた。山田雅樹さんに通訳を託しつつ。こうして最後の夜は更けて行った。



◎ 意義深い旅行だった

キム・ジニョン

1泊2日間の奈良旅行を終え、名古屋へ向かう。出迎えて下さったのは、ヒップクラブの山田さん。何も考えずにいたけれど、いざ接して

みると覚えてきたはずの言葉が思い通りに使えず、詰まってしまった。幸い皆一緒だから良かったけれど、内心は不安だった。

山田さんの車に乗り、向かう先はヒッポの会合であった。ヒッポとは、他の国の言葉を勉強する場だそう。ここでもホームステイの活動が積極的に行われているようで、僕の他にホームステイしに来た韓国人や小さい子供の2名がいた。このような集まり自体がちょっと珍しくもあり、いい集まりだと思う。ここで食事を頂き、家に到着。事前に配布された地図には載っていない所だ。小ぢんまりとしているが、風雅であり、また小さな空間を上手に利用した実用的な家だ。

次の日、朝食を頂いた後運動場へ向かう。人が次々と集まり、山田さんは一人ずつ挨拶している。「隣の親戚」そんな言葉が、ふっと頭に浮かぶ。日本人は、本当に隣同士の情が厚い。皆一緒に運動している光景も面白い。

夕方は花火祭りを見に行く。日本は本当にお祭りが多。この日だけで4箇所でお祭りがあるとい。のだから。そして、お祭りが終わった後のごみの少な。1個2個見つけるのが難しいくらい。

4日目は徳川美術館を見学し、交流パーティーの会場に向かう。移動の際にバスに乗ったの

だけ、日本のバスは、信号で止まるとエンジンを止めているようだ。でも、始動する時にむしろ燃料を食うのでは？

我々とホストファミリーと一緒に過ごす最後の夜。名残惜しいのは言うまでも無いが、通じない言葉を理解しようと努力して下さった山田さんに心から感謝申し上げたい。翌朝、空港で連絡先を交換し出国した。とても楽しく、日本のことをたくさん知ることが出来た、意義深い旅行だった。



◎ 近くて遠い国

キム・ダリン

21年生きてきた中で、初めて飛行機に乗っての海外旅行。目的地は、近くて遠い国、日本だった。いわゆるパッケージツアーではなく、生活を肌で実感できる文化交流とホームステイ。これから何が起こるのか、想像もつかない期待感でウキウキしていた。

最初に到着した法隆寺は、世界最古の木造建築物。お寺と言うとどこも似たようなものが多いが、実際に見てみるとどこか日本的な雰囲気がある。しかし、それでいて同時に韓国と日本における歴史・文化の絆や交流が感じられる、そんなお寺だった。

2日目の見学地の中で印象的だったのは東大寺。放し飼いの鹿も印象的だったが、大仏の大きさには圧倒され、これを作った人達のことを思うと「凄い」の一言に尽きる。ところで日本の史跡は入場料が高いようだが、その分管理が行き届いている。最近になって焼失してしまった数多くの遺跡のことを思うと辛いものがある。今後は遺跡の保存に一層力を注がなければならないと思った。

奈良の遺跡探訪を終え、ホームステイホストと合流すべく名古屋へ向かう。合流場所で

「김다린씨 안녕하세요」と書かれたピケが見えた時は感動した。そのまま家に向かい、手巻き寿司の美味しい夕食を頂いた。寝床に入ると、夢を見ることも無くぐっすり休むことが出来た。

名古屋の名物料理屋特産品を見て思ったことがある。韓国にも各地方に特産品があるにはあるけれど、似たようなものも多く見られる。片や、ここで特産品を薦めてくれるところを見て、特性化された観光資源開発の温度差を感じた。また、浴衣を出してもらい、これを着てなばなの里へ家族と共に出かけた。



日曜日は名駅と栄でショッピングを済ませ、交流の夕べに参加した。一緒に行動してきた友達

やその家族が皆親しくなり、和気藹々とした雰囲気がとても良かった。これまでの出来事や今晚の行事、そして皆さんのご尽力を通じて意思疎通を図ってきたが、やはり名残惜しくもあるし、皆さんの熱心な姿は私自身が振り返るきっかけを作ってくれた。

最後の朝、空港までの道のりはとても短く感じられた。空港で別れる時、お母さんが涙を流すのを見ると自分もこらえられなくなってしま

った。一週間にも満たない短い期間だったけれど、決して短くない時間を共にし、親しくなると別れが辛くなる。最初はちょっと心配だったホームステイだが、記憶に残る旅行になった。色々手伝ってくださった日本の皆さんとの再会を、今でも楽しみにしている。機会があれば、それまでもっと勉強をして、新しい感覚で名古屋を訪ねてみたい。

◎ 切っても切れない関係

「近くて遠い国」という言葉があるくらい、切っても切れない関係の国、日本。7月31日、ワクワクしながら日本への旅行が始まった。

11時、中部空港に到着し、3時間かけて奈良へ向かう。まずは法隆寺を見学した。金堂壁画は火災で焼失してしまったといい、日本の美術家が復元したものしか残っていないそうでちょっと切ない感じがした。韓国と日本は古くから親交があり、古いお寺の建物にも飛鳥時代の文化の形成に影響を与えた三国文化が垣間見える。日本の古代様式に三国文化が浸透していると思うと何だか嬉しくなる。

2日目の見学地である東大寺。平安時代に強風によって崩れ、再建された南大門が静けさと厳粛な感じを与えている。大仏殿も2度の火災に遭い、現在の建物は江戸時代に復元されたもの。当時の財政事情で大きさは原寸の2/3だという。

市民ネットの皆さんとの奈良旅行を終え、名古屋でホームステイのご家族と合流して家に向かう。実は、当初出発前はホームステイに関し気がかりなことがあった。ホームステイは経験が無いし、独島（竹島）の問題で両国間に緊張感が走っていて、ここでも影響しないかと心配していた。しかし、3泊4日のホームステイを終えると、まさに杞憂に終わった。棚瀬さんが用意してくれた夕食には、私に配慮して韓国料理を多く出してくれた。その中でも、チャプチェが最高だった。

ホームステイ2日目は、犬山城・栄テレビ塔・オアシス21・大須観音を見学した。この日は浴衣を着せてくれたのだが、一人で着るのは本当に難しい。特に帯を締めるのは一人では

出来なかった。そして草履を履いてみると何とも動きづらいこと。

3日目。まずは名古屋城を見学。第2次世界大戦で天守閣が消失してしまい、屋根上の金シヤチも含め現在の建物は復元されたものと言う。戦争の被害を思うと、ちょっと悲しくなってしまう。

最後の夜は、韓国学校でホームステイ家族を交えて交流パーティーを行った。この学校では在日同胞の方々が熱心に韓国語を勉強しているという。この人達を見て、韓国への思い、母国への思いを感じる事が出来た。お互いに違う文化圏で成長しながら、母国に対する思いは同じ……。そして、ホームステイホストの皆さんも、国籍こそ違えど気持ちは一つになってこの場を楽しんでいた。

最後の別れの時は名残惜しかったけれど、ホストのご家族とは心が通い合えたと思っている。奈良で見た三国文化に自負心を確固たる物とし、名古屋では日本人と韓国人が一つになった。



◎ 初めての海外旅行

元々海外旅行が好きではあるけれど、この良い機会に海外へ行けるのはとても嬉しいし、ホームステイも経験出来て本当に意義深いものだったと思う。日本に行く前は、言葉や文化の壁、突然飛び込んできた領土問題等心配事が多かつ

キェ・ミンソク

たけれど、いざ日本に行ってみると無駄な心配だったことが分かる。思った以上に日本の人達は親切で良い国だと思った。

海外旅行に行ったことのある先輩は、時々こんなことを話す。「期間は短くても良いから、海

外旅行に行ってみる。」と。今回の旅行も短かったけれど、感銘を受け、また大変意味のある旅行だった。



◎ 日本の仏教に触れて

チャン・ミ

初日、空港到着後奈良へ向かう。法隆寺では、大野玄妙先生が説明して下さった。聖徳太子についてももう少し勉強すればよかったと、後悔している。夕食後は女の子だけで外出。私とハジヨン、山田さんが奈良駅に残っていると、噴水前で書を認める若い男性を発見。お客と話をし、感じたことをそのまま即興で書にするという。値段はお客の気持ち次第。私もハジヨンも書いてもらった。私の色紙には、自身を褒めてあげなさいと書いてあった。

翌日、東大寺では、筒井先生から説明を受けた。普段から仏教に関心のある私は、すかさずメモを取る。大仏殿では、特別に2階へ入らせて頂いた。大仏殿に刻まれた絵について、筒井先生が説明して下さったが、仏教の世界に感嘆する私はその説明に否応無く頷いた。

食事を経て、平城宮跡も見学。今は城跡が残るだけだが、復元事業が行われていると関係者が説明して下さった。この事業は60年続いていると聞いて驚いた。古いものを大切に保管することは、愛情無くては出来ないことだと思う。

夕方、名古屋でホームステイ先である小出さんご夫婦と合流。夕食に回転寿司のお店を案内してくれた。とても美味しく、もう韓国の回転寿司屋には行けないと思った。家に帰り、お風呂の後ビールを飲みながら小出さんと会話を続けた。

長島と名古屋では色々なものを見せてもらった分、思うことも多かった。韓国から伝えられたと言う、洪水を防止する仕組みの輪中。長島

の石取り祭りには、市民が積極的に参加していた。徳川美術館に展示されている展示品に、先人たちの偉大さが見えた。また、小出さん他皆さんの解説は本当に分かりやすく、勉強になった。

最後の夜には学校に集まり、交流パーティーに参加した。ここには韓国と日本の人達が集まっているが、お互いの気持ちは必ず一つになれると信じている。

別れのとき。お世話になった日本の方々に挨拶していると、突然ダリンが泣き始めた。短い期間で親しくなったのだから、別れが辛いのだろう。私は来年日本に行くから絶対泣かないと奥さんに話したが、悲しい気持ちは一緒だった。私を最後までもてなして下さった小出さんご夫妻に、改めて感謝申し上げたい。



◎ 不安と緊張をもって・・・

ホ・インソン

落ち着かない気分の中での日本への訪問。他でもない領土問題で業を煮やす中、日韓市民ネットの皆さんは我々を信じて暖かく出迎えてくれた。特に、日本側団長の後藤さんと山田さんには色々とお助け頂いた。

中部国際空港に到着し、最初に向かったのは

法隆寺。大野玄妙先生から色々説明を受ける。聖徳太子によって建てられたこの寺は、高句麗・嬰陽王が描いたという金堂壁画と建築様式に新羅人の魂が感じられる。次の日は、東大寺を中心に興福寺、平城宮跡を見学した。これらを見ていると、我々の祖先に手を差し伸べてい

るような気がした。

奈良から名古屋へ向かう道中、ホストの方には会えるまではただ緊張するばかりだった。名古屋では3泊4日と本当に短い間ではあったけれど、色々見たり聞いたりすることが出来た。名古屋の街には、名古屋城の城主である徳川家康の精神がうっすらと見えた。また、ものづくりの街として知られる名古屋は、近年急成長を遂げたと言う。他にも、韓流ブームの凄さや在日韓国人に対しては厳しい社会であるとも話してくれた。



今回の交流を通じ、交流事業に更なる協力が必要だと感じた。また、日本についてもっと勉強してみたいと思った。

このホームステイに参加したメンバーは、皆一貫して最初はドキドキワクワクしながら日本に入り、帰る時には新たな宿題を持って帰ったようだ。

◎ 最初にして最高の旅行！

コ・ミナ

興奮冷めやらぬまま飛行機を降り、即興で覚えた簡単な日本語の挨拶を繰り返す。出口では、まるでドラマで見たような感じで日本側の後藤さん、山田さん、そして光州から留学しに来ているジョンベさんが待っていた。日本に来たというちょっと不思議な感覚は、まさに別世界だ。そしてバスの車内では、運転士の星原さんが待っていた。

初日に見学したのは法隆寺。日本のお寺は百済の影響を受けていて、韓国の仏国寺を見ているようだ。ジョンベ先輩の通訳を介し、大野玄妙先生と後藤さんが色々と説明してくれた。団体で写真を撮って、向かうは今日の宿、奈良ユースホステル。6人入れる部屋を4人で使うので、狭苦しくない。食事も皆と一緒に取れるのは嬉しかった。

次の日はまず興福寺を改めて見学し、東大寺へ向かう。東大寺には鹿がたくさんいるが、実際に見てみるとちょっと怖い。近づいてくると、後ずさりしてしまう。この後は、平城宮跡を見学した。この中で印象に残ったのは東大寺で、大きな仏像が多い。お寺そのものも大きい。筒井先生が日本の遺産は美しくて最高だと説明して下さったが、ここでは大きさにただ驚くだけだった。

名古屋へ向かう時は、私は日本語が出来ないし、ご家族もまた韓国語が出来ないこともあって、国際センターで合流する時はドキドキしていた。けれど、皆さん私たちのことを歓迎して下さっているようで、それを見て安心した。ホ

ストファミリーの皆さんも、事前に写真を交換していたのですぐに分かった。移動する車の中では、本を読みながら日本語、英語、韓国語を交えて会話する。回転寿司の食事を頂き、家に向かった。やはり寿司は日本で食べるのが一番だと思う。

次の日の朝、かおりさんの提案でヒッポファミリークラブの会合に参加することにした。外国の言葉や遊びを体験する場所なのだという。話しがしやすい人もいたけれど、殆どの人とは身振りで話すようなものでちょっと難しかった。夕方は大須の夏祭りに出かけた。髪を上げてぎゅっと結び、浴衣を着てみると自分でも日本人に見える。たくさん歩いて少し疲れたけれど、友達と合流出来たのは嬉しかった。

次の日の朝は、散歩がてら喫茶店で朝食を頂いた。飲み物を注文するとパンまで出てくるとは思わなかった。この後はショッピングを交えて名古屋城、博物館を見学したが、時間が無かったため駆け足の見学となってしまった。夕方は、韓国学校でのパーティーに参加した。写真を撮ったり、美味しい食事を頂いたりと本当に楽しい時間だった。メンバーは、うちの家族が一番だとお互い自慢しつつ写真を見せ合っていた。

別れの日。空港で皆一緒に写真を撮るため集まると、かおりさんがもう泣いている。つられてはるかちゃんまで泣き出すから尚更辛い。今日までお世話になったことに感謝しつつ、出そうになった涙を最後まで我慢した。

また、今回ホームステイに参加したメンバーは最高のメンバーだったと思う。これからも度々集まっては旅行に出かけようと約束して別れた。

最後にご家族の皆様へ。初めてのホームステイで不安だったのですが、楽しく過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。言葉を勉強して、メールや電話でやり取りを続けようと約束したことは絶対忘れません。またお会い出来る日を、楽しみにしています。最初の旅行で、日本というお隣の国が近くに感じられたことが出来た、いい機会だったと思います。



ホストの方々の感想文

◎ ホストファミリーを引き受けて

会報 小出宣昭

光州訪問団が帰国して行った翌日の昼過ぎ、国際電話を受けた妻が「張美（チャンミ）さんからの電話よ」と電話機を持ってきた。

「光州に帰ってから疲れていたのでお昼まで眠ってしまった」という彼女に、私からはEメールに写真を添付して送った旨を告げた。八月四日の朝、セントレア空港へ送る際、家の玄関前で撮った写真だった。

短い四日間であったが、我が家では全て初めてのことで、ここに至るには心配ごとや妻と相談すべきことが山ほどあった。実を言えば、我が家は、ずっと二人だけで暮らしてきており、身内のものが泊まったことも数える程のことだった。こういう状況の中でホスト家庭を引き受けるなど、到底考えられないことであった。

六月に事務局会議があり、後藤統括幹事より光州からの訪問団の話が出された。ホスト家庭を一度も引き受けたことがない我が家、今回は当然ホストの話が出てくると思ってはいたが、その時はその時と考えながらも妻にはどう説明するか思い悩んだものだ。

やがて我が家に宿泊する大学生の張美さんの名前と訪問団のスケジュールが届いた後は、妻の了解が無いまま見切り発車で、部屋の掃除を始めた。どの様にして妻の了解を得たか、ここでは明かさないが、相当に苦労したことは確かである。

ホームステイの日が近づくにつれ、妻は張美さんが使う茶わん、箸のたぐいや必要な小物類を買い揃えたり、部屋を片付けたりしてくれた。

八月一日、国際センターで初めて対面し、我が家へ向かう車の中で妻と日本語の上手な張美さんの会話が進んで正直、ほっとしたものであ

る。

八月二日、午前中は輪中をテーマにした「輪中の郷」を見学に出かけた。輪中の郷館長の諸戸氏に案内いただいたが、張美さんの理解力が高いことに気づかれ、考古学の専門家らしく熱心に説明していただいた。時にはパワーポインターを使った資料などで解説されるほどで、予定していた時間を超えてしまった。午後はアウトレットの「ジャズドリーム」での買物と「なばなの里」で野天の岩風呂で日本的な入浴の体験をした。

夜は電車で一駅移動、桑名市の中心部に三十六台の祭車が並ぶ石取り祭を見物に出かけた。浴衣姿ですっかり母と娘のようになっている二人と私は、日本一やかましい祭車を一台一台眺めながら人込みの中を前へ前へと進んだ。漆工芸・彫金・彫刻・染織など、どれを取っても貴重な動く美術館が並んでいる。大きな長胴太鼓と大きな鉦（かね）を、リズムに合わせて打ち鳴らす、やかましさに張美さんは驚いたかな。



祭の役員で美術家の浅井氏に祭の解説をお願いしてあり、浅井氏の属する「西船場町石取車」を捜したが、人込みの混雑でわからない。浅井氏は韓国で一ヶ月以上も個展を催しており、韓国語で説明してもらうには最適な人であったが、結局浅井画伯にはお会い出来なかった。張美さんは祭車の絡繰（からくり）人形に興味しんしんで、懸命に写真を撮って日本文化の一面を理解しようとしていた。

八月三日、午前中に徳川美術館を見学しようと電車で名古屋へ向かった。尾張徳川家の所蔵展示品を一つ一つ見て回った後、売店などで江戸時代の美術に関係する本を三冊買い求めた。日本の本が好きという張美さんは、この後セントレアを出発するまでに多くの本を買い求めていった。



韓国でNHKの番組を良く見ているというので、午後から名古屋放送局を見学に行った。製作技術担当部長の森氏に案内していただき、ドラマ「中学生日記」の収録を見学するため、TV第一スタジオの副調整室とセットが組まれたスタジオ内でドラマの収録風景を見ることができた。ニュースセンターでは、最新鋭のハイビジョン送出卓で実際にボタンを押してニュースの送出を体験し、スタジオではキャスター席に座ってカメラに写り原稿を読んでニュースキャスターの気分を味わっていた。

振り返れば、「日本の色々な文化を知りたい」といった張美さんに、四日間でどれだけ伝えることができたのか。

最後に八月五日の午後、受け取ったEメールを紹介する。

日本での毎日があまりにも楽しかったので、元の日常に適応できないとどうしようか思いました。お二人には本当にお世話になりました。いろいろ気を使って下さったこと、一生忘れられないと思います。これからもよろしくお願いします。

◎ ミンソナを迎えて

会報 佐々木英之

帰国した翌8月5日午前7時前、電話のベルが鳴りました。受話器をとると「ミンソンです。おはようございます。昨日は帰国後学校へ行って遅くなったので、早くお礼を言いたかったので電話しました。これから学校へ行きます。メール送ります。・・・」そしてその晩、日本語でメールを送ってきました。「日本語の勉強を熱心に行します。学校で日本旅行について発表しました。日本に留学したい。」という内容でした。

今回始めて高校生を受け入れることになりました。いつもと変わらず言葉に不安をもちながら国際センターでミンソナに会ったとたんそんな不安は吹っ飛んでしまいました。彼女は人懐こく、一生懸命日本語を使って話しかけてくれました。高校2年生でしかもこの3月から日本語を勉強しているとのことで、熱心な勉強ぶりが伝わってきました。

初めての日本旅行で、慎ましく暮らしている日本人の生活を飾りなく見たいということでした。普段どおりの我が家の生活と大須、栄、名駅前、地域のスーパーマーケットなど人々が行き交う街などを案内しましたが、どのように映り、理解し、どんな感想をもったかは楽しみで

す。

案内の道中で大学前を通る時、国立か私立か？どういう学科があるか等熱心に聴いてきました。短いホームステイでしたが、高校2年生のミンソナが日本に留学したくなる強い気持ちをもってくれたことは、我が日韓市民ネットワーク・なごやの活動が地道だがしっかりと韓国の若者たちに根付いていると思わないではいられませんでした。



訪問団の学生の受け入れは、今回で3度目でした。ホスト役は慣れてきている筈でしたが、8月1日、国際センターで女子学生シン・ソナと顔を会わせた時、私は少しばかりの不安を抱いていました。

それというのも、光州から事前に送られてきた自己紹介状に「子犬が嫌い」という一行がありました。我が家には愛犬ロッキーがいます。ソナは、YMCAから我が家の家族構成やペット等の情報を知らされているはずなので、彼女の気持ちを気づかっただけです。

でも出会った瞬間、私の不安は飛び去りました。ソナは、なんと愛犬ロッキーを含め、家族全員にお土産を持ってきたことを、微笑みながら告げてくれたのです。

彼女の表情には、「ホームステイする以上、ホストの愛犬には、ホスト同様の気持ちで接してみよう！」という強い意思がうかがわれました。そんなソナには、“昔から知りあっている娘さん”のような親しみを覚えたのです。

ソナはホームステイ中、最近の韓国の若者らしい素顔を時々見せてくれました。例えば最初の夕食を、主人と三人で食べようとした時のことです。「キムチ、食べる!？」と私はいそいそと声をかけました。実は、私はキムチ造りに自信があって、白菜、大根、それにきゅうりなどのキムチを用意しておいたのです。返ってきた答えは意外なものでした。

「あの一私、キムチ食べないです!」と。準備したキムチを出す場がなくなったことは残念でしたが、ソナが遠慮せず、さらりと言ってくれたことで私の気分は一気に楽になりました。

「なるほどね!日本でも若者が漬物を食べなくなってきているけど、韓国でもキムチ食べない若い人が増えているんだね!」と主人とうな

ずきあいました。

食べ物といえば、ソナは名古屋のとんかつ屋「矢場とん」の存在を知っていました。ソウルに「矢場とん」そっくりの看板を掲げたパクリ店が出来て、訴訟騒ぎにもなりましたが、今や韓国のインターネットの世界では、「矢場とん」のとんかつは結構、有名らしいのです。そこで「本物の味を自分の舌で確かめて!」と矢場とんに連れて行きました。

その外ソナが好きだといううどんやいなり寿司も“本場の味”を食べてもらいました。こうして日本食の愛好者が韓国の若者の間にじわりじわりと増えていっている気配も実感しました。

さて今年の夏、名古屋周辺は日本一暑い地域といわれましたね。ある日、私は額の汗を拭いているソナに言いました。「ソナ、この暑さをよく覚えておいてね!将来ひどい暑さの日には、あのむし暑い名古屋でホームステイしたことを、きっと思い出してくれるから」…と。

ソナと過ごした4日間の中で、私にとって一番思い出となったのは、いろいろな話で盛り上がり笑いあった夜の語らいの時間でした。その中には、パソコンで彼女のホームページを開いて、若い韓国女性の等身大の息吹に触れた楽しい記憶もあります。

そして今、きっと彼女とまた逢えるだろうと思いつつ、その日が早く来てほしいと願っています。

◎ 夢と希望のホームステイ&ホスト

会報 山田 雅樹

我が家にやってきた李賢静(이현정)さんは、今回のホームステイを楽しみにしていたようだ。来名前にそれとなく気づいたのだが、それでいながら彼女の期待に応えられたかと問われると、正直自信が無い。土曜日は愛・地球博記念公園、徳川美術館、大須観音に案内し、映画「崖の上のポニョ」も見に行ったのだが、果たして賢静は満足してくれただろうか。また、翌日曜日はショッピングをしてから名古屋城を見学し、パーティー会場である韓国学校に向かったのだが、僕は料理などの買出しに出かけなければならず、

ジョンベ君に任せることになってしまった。内容は薄く、半ば彼女を放ったらかし。内心がっかりして韓国へ帰ったのではないだろうか。そう思うと、申し訳ない気持ちと後悔の念ばかりが前に出てくるのであった。

しかし、それでも彼女は名古屋で見たもの、感じたことを一生懸命メモしていた。後々自分の研究資料にするのだという。帰国時に彼女が書いてくれた手紙に、こう記されていた。「私の幼い頃からの夢は、我が国・韓国のことを全世界に伝えたいと言うことです。文章を通じ、会話を通じ、韓国のことを伝えたい。それだけ韓

国のことが好きなんです。そのためには、外国での文化体験も重要だと思うのです。それだけに、今回日本で貴重な体験をすることが出来たのは嬉しかったです。」

そんな風にかかれると、恥ずかしくて顔向けが出来ない。しかし、彼女が一生懸命勉強しているところを見ると、僕も負けていられないと思った。最近会社を辞めた僕は、通訳案内士の資格を取って通訳になることを決意した。名古屋では勉強する環境が整っておらず独学を覚悟しなければいけないが、そんなことは言ってもらえない。彼女は来年から日本語の勉強を始めると言うが、それなら僕も通訳案内士の資格を取ってやろうじゃないか。彼女にとっても僕にとっても、お互いの夢のために刺激し合い励まし合えたのならそれでいいのかな……と自分で

勝手に解釈している。彼女が休む暇を惜しんで勉強しているところを想像しつつ、自分の心に鞭を打って喝を入れるのであった。



◎ 肌で感じる交流

南燧榮 (会員南和也氏の娘さん)

韓国の人 (ヤン・ハナさん) が我が家にホームステイに来られて、とてもよい思い出が出来ました。

初めは言葉が伝わらなくて困っていたけど、父に通訳してもらいながら話せるようになりました。あと、トランプでババ抜きや神経衰弱などをして一緒に楽しむことが出来ました。他にも名古屋城に行ってシャチホコと写真を撮ったり、大須観音の夏祭りに行き踊ったり花火を見たりして、とても面白かったです。

「日韓交流の夕べ」では、たくさんの韓国人達と写真を撮ったりして、いい思い出になりました。

ヤン・ハナさんが帰る日、私は朝から習い事だったので空港までお見送りをすることはできませんでしたが、とてもとても楽しく、いい思い出になったと思います。



◎ 酒が飲めるぞ!!

会員 梅田 徹

8月1日(金)：国際センターロビーでチェミンソク氏と出会う。24歳・軍隊経験者の彼は、高校生主体の今回の訪問団の中では落ち着いている。プロフィールではお酒2合程度と、あったがテコンドー3段の猛者はそれ以上に飲めそうだ。今回は楽しみなホームステイになる予感がする(最初の直感通り、初日から酒盛りとなった)。早速自宅へ帰り、好きな食べ物に挙げていたお好み焼きで歓迎会、焼そばも大変気に入ったようだ。私の兄夫婦も参加して大いに盛り上がる。後藤さんから今日は早く寝かすようにと言われていたが・・・。

酒盛りはさらに続き寝たのは12時前だった(お疲れ様でした)。

8月2日(土)：自動車に興味があると言うのでトヨタ博物館に行く。トヨタ車を日本で初めて見たと言う。そうだ！韓国ではレクサスブランドだ。クラシックカーに興味があるのかしきりに見入っている。この後、栄のオアシスに行くが、暑い！暑い！屋上を歩くが数人しかいない(当たり前である。こんなに暑いのにわざわざ太陽に近づくなんて)。この日のために予約してあったクラシックコンサートに行く。若い彼ではきっと居眠りするだろうと思っていた

が、何と！ピアノ演奏では身を乗り出して聞いている。聞けば幼い頃にピアノを習っていたと言う。テコンドー3段の猛者にも意外な一面があった。文武両道だ（女房曰く：体のわりに指が凄く綺麗と感心していた。クロックナー）。夕食のために女房と姪が合流する。日本料理屋では4人で食事をしていると、仲居さんが時々こちらを見ている。きっと不思議に見えたのでしょう、4人で英語、韓国語、日本語で会話しているのだから…。二次会は韓国学校の先生と仲間が待つ韓国料理屋に行く。キムチを一口食べた途端、ここの料理人は韓国人かと聞いてきた。やはり分かるのだ。チェミンソク氏もお酒と共に絶好調、仲間もお酒と共に韓国語が流暢になる。彼が爆弾酒を作り始め、勇気ある1人の男性と3人の女性が挑戦、見事飲み干す。全員大いに酔っ払う（この宴席の写真を掲示するには、少し憚られる場面もありますのでご希望の方だけにお見せします）。仲間の女性が彼を大いに気に入り連れて帰りたいと駄々をこねる。やはり軍隊を経験した若者は日本の若者と何か違って女性にもてるようだ。羨ましい！！まさに国際交流における真骨頂の夜でした。

8月3日（日）：二日酔いもせずにつきりと起き名古屋城に向かう。歩くだけでも暑い。奈良で名所旧跡を見てきたためか、あまり興味は無さそうだ。加藤清正も知らなかった。まあ、今時の若い人はこんなもんでしょう。コスプレ世界大会会場のオアシスに行くが、夕方からの開場だったので大須に向かう。大須観音に行きお参りするが心は恋人へのお土産のようだ。アボジ、オモニのお土産はすんなりと決まったが、恋人へのお土産は大変だった。10店以上探したと思う。最終的にチマを買ったが、何と彼女のサイズを知っているのだ。“どうしてサイズを知っているのか”と聞くと、“日本人は恋人同士で買い物に行かないのか？”と聞き返されてしまった（世代差を痛感する。最近日本の恋人同士も一緒に買い物に行くらしい）。大須祭りが開催されていてサンバのパレードに出会う。肌も露なダンサーの写真を二人で取り捲る。こんな時は二人ともただの男でした。オアシスに再度行きたいというので写真でも撮るのかと思ったら、コスプレ大会に興味があったようだ。キャラクターの衣装をきた若者が溢れている。見ていだけでも楽しい。彼も目を輝かしている。何のコスプレか分からないが一緒に写真を撮る。この後、韓国学校に向かいパーティーに出席する。団長さんの綺麗な韓国語での挨拶に感動し（ゆっくりと話して下さったので聴き取れて余計に感動）、ホストの方々、一人一人に御礼に廻

る姿を拝見し感服する。美味しい料理とお酒、会話で楽しい時間はあっという間に過ぎ帰宅する。風呂から出た後、今までの撮影した写真を見ながらビール数本を空ける。インターネットで彼のホームページにアクセスして恋人の写真を見せてもらう。一生懸命にお土産を探すはずだ。とても可愛くて綺麗！！この幸せ者！！

8月4日（月）：もう帰国の日だ。もう過ぎたの？と思うほど早く感じた3泊4日だった。食事後、空港に向かう車の中で“また日本に来たいと思う？”と聞くと“就職してお金を貯めて是非来たい”と言った。とてもうれしい気分になる。こんな気持ちで帰国してくればお世話した甲斐がある。これだからホームステイは止められない。帰国する時、後ろを振り返らなかったチェミンソク氏、やはり大人だった。元気で頑張ってください。さようなら！！

今回、学生をお世話したホストの方々の熱意と友好には感動します。空港でのセンチメンタルなお別れを見ていますと、真心さえあれば人の絆は国を超えて結ぶことができるものと痛感しました。今までに来た日本訪問団世代が社会の中核を占めるようになった時、素晴らしい日韓関係が出来上がっていると確信しました。

最後になりましたが、この機会を与えて下さった日韓ネットワークの関係者、訪日を決定して下さった光州 YMCA の関係者、パーティーでお世話して下さいました皆様に感謝します。そして、協力してくれる家族、学生さんをお世話できる自分の境遇と健康に感謝しています。



今年の夏、我が家に、韓国の大学生、金タリンちゃんがホームステイに来ました。タリンちゃんは、よく気のつくやさしい子で、私が家事をしていると、いつも、「お手伝いしましょうか」と声をかけてくれました。また、何かしてあげると、「ありがとうございます」の他に、必ず、「嬉しいです」とか、「楽しかったです」とか、気持ちを言葉にしてくれる子で、4日間、気持ちよくすごすことができました。これは、韓国のお国柄でしょうか。私も見習いたいと思いました。

タリンちゃんはとても頭のいい子で、教えてあげた日本語を、あっという間に覚えてしまって、すぐに使っていました。1ヶ月も日本にいたら、日本語のタリン（タリンは韓国語で達人の意味があるそうですね）になってしまうのではないのでしょうか。

そんなしっかり者のタリンちゃんですが、20歳の女の子らしい、かわいらしい面もたくさんありました。とても恥ずかしがり屋さんで、何かあると、よく「ブックロー」と言っていました。浴衣を着て出かけたときも、交流会の自己紹介で前に押し出されたときも。

ショッピングに行ったとき、タリンちゃんは、自分のことはさておき、私たちに何かプレゼントをと考えてくれたようで、「お母さんは何が好きですか?」「子供たちはどれが好き?」と何度も聞いてくれました。結局、あまり自分のものは買わず、帰国の時、空港でみんなの持っているたくさんのお土産を見て、大急ぎで買いに走っていました。そんな、しっかりしているけれど、かわいらしくて、優しい女の子でした。

そして、私たちにしてくれたプレゼントは... 私には、便箋を買って、慣れない日本語で一生懸命手紙を書いてくれ、子供たちには、ビーズで、動物のマスコットを手作りしてくれました。

朝の四時までかかって作ってくれたそう。心のこもったプレゼントに胸がいっぱいになりました。

子供たちも、すっかり、お姉ちゃんになついでしまい、4日間、子供たちの「タリンちゃん、あそぼう」という声が家中に響いていました。タリンちゃんが帰った今、子供たちのごっこ遊びに耳をすますと、「ちょっと韓国行ってくるねー」とか「この子、タリンちゃんって名前ね」という声が聞こえたり、上の娘は、夏休みの自由研究は韓国にすると行って頑張っていていきました。子供たちにとっても、韓国は「大好きなお姉ちゃんのいる特別な国」になりました。

最後になりましたが、私にとって、タリンちゃんや韓国の皆さんとも嬉しい出会いができましたが、日韓市民ネットワークの皆さんとお会いできたことも、とてもいい経験でした。交流会では、美しい詩の朗読や、おいしい食事、別のホストの方から、お料理まで教えていただき、とても楽しい時間をすごすことができました。

とてもいい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。これからも、このようなすばらしい活動を続けていただきますよう、ご活躍をお祈りいたします。



親子でヒッポに通い、家族で海外の人との交流を望んでいる時に、この話があり、喜んで受け入れをさせてもる事にしました。最初は言葉の不安はありましたが、それよりも「韓国語の発音を生で聞いてみたい」との思いの方が強かったです。



スティ当日から3泊4日とはいえども、バタバタと過ごす日の中、我々家族としては、日本的なものを少しでも知って頂きたいとの思いから、日本独自のゆかた等を着て、大須へと出かけました。時間は短い中、母国の言葉の話せる方が我が家へ来訪された時でも、いろいろと何を言っているのと聞いたり、私を頼りにしてくれている事を見て、他の方より、「歌小里はもう母になっているんだよ」との言葉に、とても嬉しく思いました。

彼女が少しずつ笑顔から、声を出して笑ったり、段々と打ち解けてくる感じを受け、わが子はまだ小学校1年生と2歳の小さい中、お互いが言葉は通じなくても理解しようとする姿に親にとっては、とっても微笑ましく思いました。そして我が家に大きな体験が出来たことに対して、とても良いはじめての夏休みを迎えることが出来たと思います。

まだ2歳の子供だと思っていた息子が、大須で、ちょっと彼女の姿が見えなくなると探し、また最後に空港で見送るにあたり、涙を流しながら帰らないでと感情を表して、言葉にしている姿を見たときに、小さいながらも一緒に過ごしたことにより、家族として受け入れていたのだなと思うと、涙が頬を伝わりました。



この体験を通じ、また機会があれば受け入れもして行きたいと家族で話し合い、それよりも家族で韓国に行つて異国の文化等に触れてみたいと強く思いました。住んでいる国や言葉、そして生活習慣の違い等、とまどうことなく、わが日本の伝統や日本のよさを誇りを持って伝えていける役割をしていければ良いかなと思いました。

今回は大変素晴らしい経験をさせて頂きました。本当に有難うございました。

◎ キム・ハジョンと過ごした日

土川 照恵

京都・奈良の一泊二日の旅を終え、ホストファミリーの待つ国際センターに帰ってきた。どんな家族か期待と一抹の不安を持った顔があった。

10人の留学生の中、韓国語のみの人・日本語の少し話せる人・日本語の上手の人等色々である。私の所に来たのは、後藤さんの心くばりか、日本語が使いこなせる高校一年生、キム・ハジョンであった。

彼女は、名古屋駅まで行く途中の地下街の商店街の人の賑わいにも驚いた様子もなく、さしたる興味もない様子だ。韓国の光州は地図で見ると南部の田舎なのと思っていた謎はすぐ解けた。ハジョンの姉がファッション関係の日本の学校に入り、勉強している時に今の日本人のご主人さまと知り合い結婚された。そして、東京原宿にファッションの店を構えているという。だから、彼女は時々日本に来ているという。

家に着くまでの1時間いろいろとしゃべってくれた。

自分の名前は、キム・ハジョンです。ハジョンと呼んで下さい。あなたは、どう呼んだらいいですか。等と堂に入った自己紹介である。

私の孫は、私立の高二でのんびりしているの

で、韓国の高校生はどうですかと尋ねると、勉強しない人は高校生とは言わないと来た。始業は七時四十分に、終了は夜の十時迄、これで驚いていたら、その後塾へ行き十二時迄。家に帰り宿題を済ませ寝るのが二時位。これが普通という。これだけ熱をいれるのは、大学は一回勝負の全国統一テストで振り分けされること。このテストの日だけは、一般の車、人の外出も規制され受験者が大優先される。

大学を卒業してもよい就職先は少なく、有名大学入学にしのぎを削る。彼女はみんなやっているから私もしなければならぬと言う。でも、彼女は、このように良いのか、疑問もあるようだが。

先生の叱咤激励もすごい。死ぬ気でやれ。今遊んで一生後悔するか がんばれという。二十五%位は中学校でやめると言う。彼らは、あまり仕事がなく一生苦勞するという。勿論 高校の勉強が辛くて辞める生徒もいるらしい。

光州では、教師の職業は敬意（畏怖にも似た）を持っているようである。家に来る途中、彼女は、教師をしていた私の夫をどんな人か聞こうとする。普通の人と答えておいた。

途中スーパーで買い物をし、八時過ぎに着

く。九時に和食の夕食。炒め物が苦手なので煮物・いんげんの胡麻和えなどしたが口に合わな
いらしく、スーパーで買った焼き鳥・レバーを
美味しいと言って食べた。ご飯をお代りしてく
れたのがうれしかった。

寝室は母屋のベツトルームを予定していたが、
最近 日本のあちこちで地震が起きているので、
新しい家が丈夫と思い離れの和風の部屋にした。
我々は母屋にねるから、女の子一人では心細い
かと思い、離れで枕を並べて寝ようかそれとも、
隣の部屋に寝ようかと提案したが一人が良いと
言うので、彼女ならと思いそうすることにした。

次の日午前中、詩吟の練習があったので一緒
に連れていった。私の友達が「夕べは、よく眠
れましたか」と聞くと「極楽でした。」との答え
にはみんな舌をまいた。また、彼女は詩吟の教
本を見てある程度の意味を理解できたようだ。

午後は、アニメ映画「崖の上のポニョ」を見
た。韓国でも宮崎駿は、人気だそうだ。夏休み
で親子で満員だった。

三泊四日の短い交流だが、話がたくさん出来、

有意義な日であったと思う。キム・ハジョンは、
リーダーの資質を持っている。臨機応変に対処
でき、人への気遣いもできる。今は、原石。将
来を楽しみにしています。







회원 마당

会員の広場

◎ 豊山教室ソウル研修旅行

会員 荒木己恵子

韓国語を勉強し始め2年を過ぎた頃より、「教室のみんなで、ソウルへ行って韓国語を使ってみたいネ。」との声が上がりました。皆、家事の調整をし、(遠藤さんと平松さんが、どうしても都合がつかなかったのが残念でした)荷物の準備も万全!韓国語の準備も、もちろん万全!!でソウル、利川を観光してきました。

引率する私の失敗も皆に助けられ、又、雨の

中、道に迷ったハプニングも、7人が力を合わせて乗り越えてくれたのも、とてもうれしかった事でした。今度は9人みんなで行こうと思います。どんなにか楽しい事でしょう!!

私の書ききれなかった思いを、旅行中ずっと会計をしてくださった浅井さんと、初めての韓国旅行だった山村さんが感想文を寄せてくれました。

◎ 韓国旅行で学んだこと

会員 浅井恵子

今回の韓国旅行は一言でいうと良く歩きました。ひたすら歩きました。歩く中で人と出会い、食べものに出会い、建物に出会い、歴史に出会い、生活に出会い・・・様々な出会いがありました。日本では、経験できないことの連続でした。今までの自分ない自分にも出会えた貴重な経験でした。

韓国は、もう少し遠い国と思っていましたが、飛行機で2時間足らずでいけてしまい、狭い飛行機の中も苦痛ではなかったです。韓国は活気にあふれていて、元気な街です。今回、よく歩いて、いままでのイメージと違ったのは、通り

を入ると木々があふれていて静かで涼しい、ほっとする空間があったのです。今度来るときは、韓国のそんな場所を多く見つけたいです。

今回は、とにかく一緒に行った先生・仲間が楽しく、この旅をより一層意味のあるものになりました。旅行での様々な出来事・ハプニングすべて貴重な思い出となりました。みんなと「また来年も行こうね」と約束して、旅行の積立の計画までたてました。来年は韓国語がいまより堪能になって、より韓国の人たちと、もっと触れ合ってみたいです。

◎ 韓国研修旅行

会員 山村ハリ

7月12日(土)11時30分、仁川空港に到着。荒木先生と私達生徒7人、計8人の韓国研修旅行が始まりました。

8人乗りの大型タクシーで、明洞の鶏林荘旅館へ。そこは、パシフィックホテルのすぐ近く

なのでわかりやすい所でした。宿泊代は1人、2泊3万ウォンでした。昭和の時代に戻ったような懐しさを覚える旅館でしたが、クーラーはちゃんと付いていました。まず宿の人にご挨拶。アンニョンハセヨ!コマオヨ!は言い慣れてき

ました。

荷物を置くやいなや、私達ははりきって明洞の町にくり出しました。途中から激しい雨が降りだしたので清溪川散策はとり止め、地下鉄に乗り、東大門市場へ行きました。沢山のお店にびっくりしましたが、それぞれお気に入りの服やベルトを見つけて、買物を楽しみました。片言の韓国語と日本語と英語と色んな言葉でしたが、お店の人と話ができて、韓国に来た事を実感しました。みんな、それぞれ会話の本など買って、出来るだけ韓国語で話せるよう努力していました。1年目は留学生のスフン先生に、2年目からは荒木先生に熱心に教えて頂いていますが、なかなか発音もむずかしくて、習った言葉もすぐには思い出せません。もっともっと色んな話ができるように、これからも勉強を続けていきたいです。

1日目の夜8時から、貞洞劇場での伝統芸術舞台「美笑」は美しい演奏と舞、激しい太鼓や鐘の音も心地良く響き、旅の疲れを癒してくれました。

2日目は、朝おいしいおかゆを食べて、利川のミランダ温泉に行き、アカスリも経験しました。その後、新村のグランドマートではみんなどっさりお土産を買いました。そしてまた、その夜遅く、涼しい風に当たりながらテントの屋台で、色んなおいし料理を食べながら、緑色の

ビンの焼酎を飲んで、まるで韓国ドラマの一場面の様に、韓国語を交えながら大いに盛り上がりました。

3日目は仁寺洞の町を歩き、きれいなお土産屋さんの2階で、冬のソナタの一場面、ベンチに2個の雪ダルマがのっている所で、記念撮影をして、みんな満足。私達みんな、韓国ドラマにはまっています。

荒木先生のお骨折りのお陰で、荒木先生はじめ、仲間の皆さんと仲良く、楽しい旅ができて、とても嬉しかったです。コマオヨ！



韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。

서울 통신

韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。
今後とも期待しております。

○ オリンピックと広告

韓国ソウル市在住 会員 坂野慎治

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

金メダル13個、銀メダル10個、銅メダル8個という好成績で盛り上がった北京オリンピックが終わって、はや1ヵ月。山積している政治・経済問題ばかりのニュースを見ていると、ずいぶん前のことのように感じます。しかしテレビの広告では、オリンピックスターの活躍が続いています。

まずは、水泳のパク・テファン選手。まだ19歳と若く容姿も良いため以前から人気がありましたが、今大会でも男子400メートル自由形で金メダル、200メートル自由形で銀メダルと期待通りの活躍を見せ、名実ともにトップスターになりました。パク選手は、韓国の水泳選手としては初めてメダルを獲得し、男子自由形ではベルリンオリンピックの寺田登選手以来、東洋人として72年ぶりの金メダルとなりました。

た。その影響で、プールに通う人や子供に水泳を習わせる親が増えているそうです。

そして、新しいスターとして脚光を浴びているのが、金メダルを取ったバドミントン男女混合ダブルスのイ・ヨンデ選手。20歳のイケメン選手で、カメラに送った勝利のウイंकが年上の女性の心を奪い「国民の弟」と呼ばれるようになりました。しかし、あまりの人気にテレビや広告への出演依頼が殺到し、選手生活の妨げになるのではないかと心配されているほどで、インターネットのファンサイトは「そっとしておいて！」という書き込みであふれているそうです。

それ以外にも、団体戦でオリンピック6連覇を果たした女子アーチェリー選手、アテネオリンピックでの銀メダルに続き銅メダルを獲得し

た女子ハンドボール選手など、これまではオリンピック期間中でなければ注目されなかった選手もテレビ広告に出演しています。以前はスポンサーが付きにくかった種目も関心を集めているのは、メダル獲得と同じくらい喜ばしいことです。

こうしたスポーツ選手の出演するテレビ広告を見てみると、以前と比べて実際の競技の場面が多いことに気づきます。選手のぎこちない演技ではなく、真剣に試合や練習に臨む姿、つまりスポーツ選手本来の姿が中心になっているのです。こうした流れは、純粋なスポーツファンの増加が影響しているのかもしれませんが、今回のオリンピックでもテレビは韓国のメダルとスター選手ばかりを追いかけて、メダルの期待できない競技は放送しませんでした、ケーブル

テレビなどで海外の放送を見てスポーツそのものを楽しんだ人が多くいました。

このようにスポーツスターが活躍するテレビ広告ですが、登場するのは世界的な選手に限られていて、韓国国内でだけ活動している選手がほとんどいないのは気にかかります。例えば、野球のイ・スンヨプ選手、サッカーのパク・チソン選手、フィギュアスケートのキム・ヨナ選手などに人気が集中しているのです。韓国のスポーツ選手も海外への流出が続いていますが、プロ野球選手の最高年俸が1億円以下という経済的な理由もあるはずですが、オリンピックを機にアーチェリーやハンドボールの選手がテレビ広告に登場したように、これから韓国国内のスポーツ選手も広告に出演する契機が生まれなかと期待しているところです。

編集後記

(2008/9/21)

会報 No. 43 をお届けします。皆様のご協力でもっとも無事に訪問団を迎えることができました。この出会いが日韓交流の強い絆になるといいですね。

池貴巳子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1999 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 junhykw@pop12.odn.ne.jp